

=====

**株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション**  
**2025年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨**

=====

-----

<概要>

- ◇開催日時：2025年11月6日(木) 16:00~17:00
  - ◇内容：2026年3月期 第2四半期決算状況
  - ◇説明者：代表取締役 取締役社長 阿部 貴志  
取締役 CFO 松島 弘明
- 

<ご留意事項>

この「質疑応答要旨」は、決算説明会での発言内容全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

\*文中における略称・用語について

■会社名

- ・GY；株式会社 GS ユアサ
- ・LEJ；旧 株式会社 リチウムエナジー ジャパン

■その他

- ・BEV；バッテリーEV
- ・PHEV；プラグインハイブリッド車
- ・HEV；ハイブリッド車
- ・ESS；Energy Storage Systems
- ・LFP；リン酸鉄リチウムイオン電池

【質問①】

産業電池電源事業について、2Qの業績が前年比で若干下がっているが、前年が好調すぎたという理解でよいか？また今期は期末で予定していた案件が期ずれになるとのことだが、どれくらいの影響をイメージしているか？

【回答①】

産業電池電源事業の傾向として、上期と下期の期末に案件が集中するビジネスであり、納入のタイミングのずれについては考慮していない。引き続き好調であるという見方である。

期ずれ影響については売上と利益に直結する。売上ベースで 60 億弱、利益ベースで 5 億弱の影響がある。何とか今年度に収まらないか客先と調整している状況である。

【質問②】

車載用リチウムイオン電池の今後について、下期は新設ラインの償却負担も入るということだが、通期で償却前利益 20 億というのはもう少し上振れしそうに感じる。下期も上振れ基調なのか？

【回答②】

下期に関しては上期に続いて上振れ基調。社長の阿部が説明した通り今回は、業績修正のレベルには満たない。来期以降、車載用リチウムイオン電池のラインを止めながら製品を製造していく予定なので垂直傾向で業績が上がるのは難しいが、足元の状況は幾分改善しているとの見方で問題ない。

【質問③】

当初計画比で 2 Q の業績についてセグメント別に説明してほしい。

【回答③】

自動車電池国内：計画通り。若干プラスアルファ、アンチモンの高騰は売価是正でバランスが取れている。

自動車電池海外：トルコの業績不振が足を引っ張っている、他の拠点のカバーがどこまで機能するかにかかっている。

産業電池電源：上期は計画より若干上振れ。通期に関しては 190 億という営業利益に到達するかは未定だが、期ずれの結果がどうなるかで変わってくる。

車載用リチウムイオン電池：上記回答②で申し上げた通り。

【質問④】

上記回答③であった「期ずれ」について、期ずれがなければ営業利益 190 億到達できるのか？

【回答④】

期ずれに関しては、申請手続きが間に合うかどうかにかかっている。今期の手続きが間に合わなければ、来期に繰り越される。期ずれがなければ、190 億の営業利益目標はぎりぎり到達できる見込みである。

【質問⑤】

車載用リチウムイオン電池は一過性の利益なのか？また、LEJの中でPHEV用と常用ESSのラインを分けていくのか？

【回答⑤】

経費の削減、歩留まりの改善、新車メーカーに対する売価交渉が実を結んでいる。下期の上振れに関しては、一定は限定的としているものの通期で上振れ基調と認識している。LEJ栗東事業所で生産ラインをやりくりしているが、製造が間に合わないため新規の増設（大幅増強）を検討している。第七次中計で詳細について明らかにしたい。

【質問⑥】

GYにおいて七次中計の位置づけを教えてください。利益を伸ばしていく時なのか、土台固めするときなのか教えてください。

【回答⑥】

六次中計では収益基盤固めの段階だったが、七次中計では収益基盤を固めたうえで攻めに転じる。既存事業の利益を注力分野に投資していく計画である。

【質問⑦】

BEVの需要が少ない中、新しい滋賀工場が財務上の足かせにならないか懸念がある。懸念を晴らせる対策があれば教えてください。

【回答⑦】

BEVの潮流が大きく変化していることは事実。BEVについては需要に応じた対応をホンダ様と協議して進めている。滋賀工場(横江)をまずフル稼働にすることをホンダ様と検討。七次中計で計画している利益を毀損する事業にはしないよう進めているところ。七次中計を説明する際には、この辺りを精緻にお話しできるようにする。

【質問⑧】

七次中計の方向性について聞きたい。今後経営資源を産業用に傾けることを想定してよいのかなど教えてください。

【回答⑧】

産業用分野については、これまでありもの(栗東事業所の電池や生産設備など)で対応してきた。今後は産業用リチウムイオン電池にしっかり投資していくことをこの場で明言する。詳細は七次中計で明らかにする。

【質問⑨】

GYレポートを見て、次の中計で企業価値向上に焦点をあてるとあったが、意図を教えてください。これまで御社がそのようなこと企業価値向上について言及することはなかったように思う。社内の変化などを教えてください。

【回答⑨】

企業価値向上は当たり前の考え方。全従業員が企業価値向上のために一つ一つの業務に取り組んだ結果が株価に現れると考えている。企業価値の高いところにしか人やビジネスは集まらないという考えのもと、社員一丸となって取り組み、事業を強靱化していくことを目標としている。

【質問⑩】

車載用リチウムイオン電池の増減要因として売価見直しがプラスに効いているとあるが、PHEV、HEV のどちらか。

【回答⑩】

売価見直しの主たる対象は HEV。PHEV は物量に応じた売価テーブルに基づいて売価が変動しているため、影響はあまり大きくない。HEV の売価が是正できた理由は、鉛蓄電池の事業部が新車メーカー様と長年にわたり関係性を築き、価格交渉を行ってきたため。この経験をリチウムイオン電池に横展開して、売価是正を勝ち得たことが今回の大きなプラス影響に繋がったと考える。

【質問⑪】

新型リチウムイオン電池はどういったところを想定しているのか？

【回答⑪】

産業用リチウムイオン電池で LFP かつ大型の分野を強化していく予定である。

以上